

## <優秀業績賞>

### 正十字交差点における標準ラウンドアバウトの導入

#### ～道路交通法改正後における関西圏初の新設ラウンドアバウトの導入～

株式会社オリエンタルコンサルタンツ関西支店

## 1 事業概要

今回ラウンドアバウトを導入した立田交差点は、滋賀県守山市に位置する守山市道笠原立田線の4枝の交差点である。当該路線は集落が点在する市街化調整区域内の直線的な道路であり、琵琶湖大橋に繋がる滋賀県道11号守山栗東線（レインボーロード）と並行することから渋滞時の抜け道となっている。

このような状況から、本交差点では平成21年4月から平成25年3月までの5年間で9件の出会い頭事故が発生し、路面標示等による交通安全対策を講じたものの抜本的な対策とならず交通安全面の確保が課題であった。このため、新たな道路構造として注目されるラウンドアバウトについて社会実験を実施した上で本格的な導入を行い、交通安全性および交通円滑性の向上を図った。



図-1 位置図 資料提供：守山市

## 2 検討経緯

過去5年間で出会い頭の人身事故が9件発生し、その内2件で重大事故が発生していることから、地元住民からは信号設置の検討を含めた交通安全対策の要望があった。

守山市では路面標示などによる交差点内の安全対策を実施したが、大きな効果が見られないため、無信号でも安全かつ円滑な交差点運用が期待できるラウンドアバウトの導入を図った。

ラウンドアバウトの導入にあたっては、国土交通省の「道路に関する新たな取り組みの 現地実証実験（社会実験）」により、平成26年1月から社会実験を実施。ラウンドアバウト導入の効果検証と社会実験を踏まえた本格導入に向けた課題および改善点を把握したうえで、本格導入に向けた改良を実施し平成27年5月に開通を迎えた。  
※当社は社会実験～本格導入に向けた計画・設計を実施

## 3 ラウンドアバウトの導入による効果

社会実験を通じて当該箇所におけるラウンドアバウトの導入効果として、交通安全性の向上に対して流出入速度、環道内速度の低下が図られ正面衝突等の重大事故の低減や利用者の車両同士の鉢合わせ機会の減少、安全確認が容易になったことが確認できた。また、交通円滑性の向上としてラウンドアバウトの各流入部の平均遅れ時間は信号制御した場合の平均遅れ時間に比べ大幅に減少することが確認された。本格導入にあたり、社会実験時の構造の見直しを実施した。本格導入後も重大事故の発生はないことからラウンドアバウト導入が交通安全性の向上に寄与していると考えられる。

①社会実験から本格運用に向けた道路構造の見直し

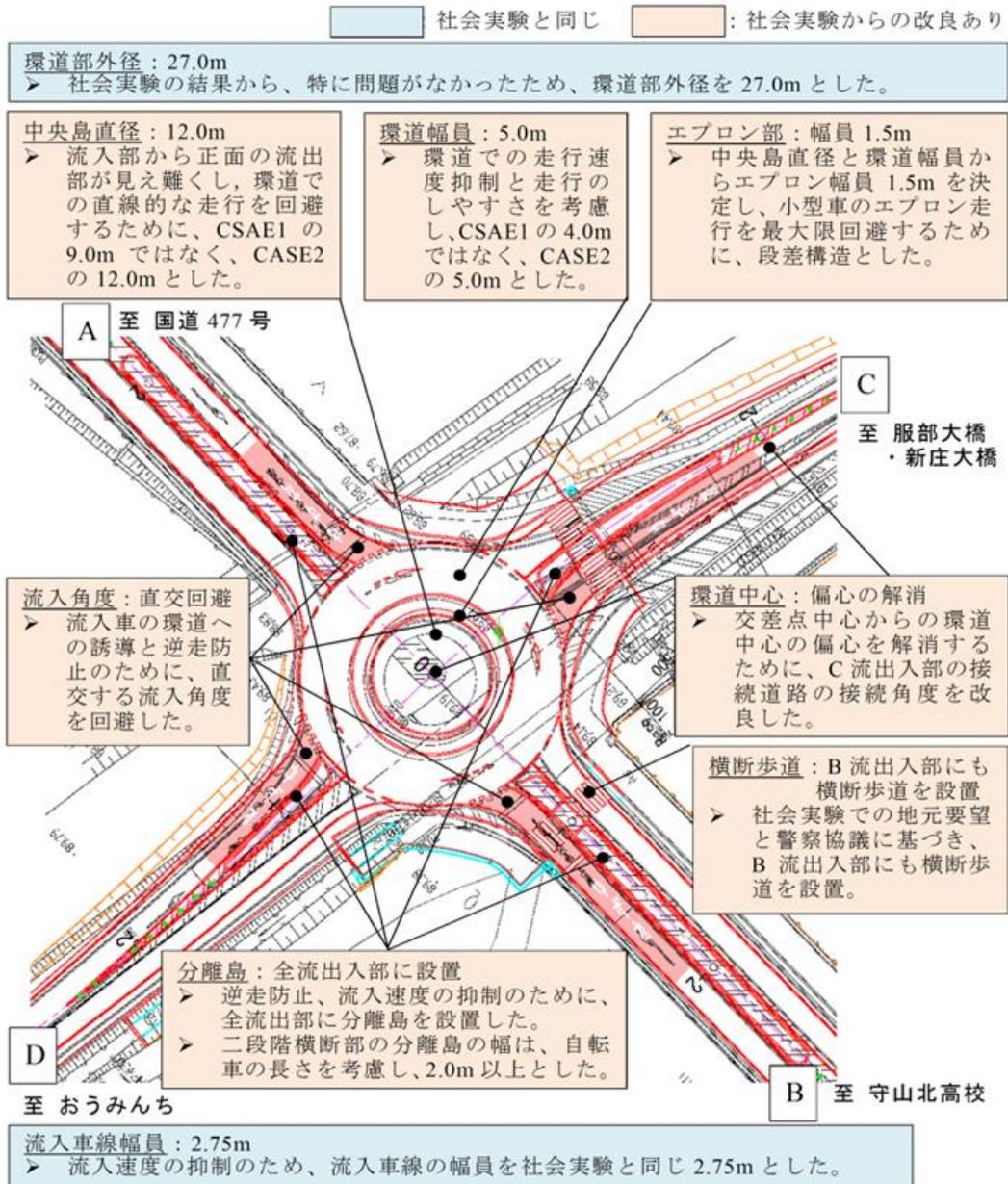


図-2 社会実験を踏まえた幾何構造の課題と対応 資料提供: 守山市

②本格導入のイメージ、完成写真



図-3 本格運用のイメージ(鳥瞰図) 資料提供: 守山市

写真-1 本格運用の状況